

渡辺仁史

これってトースター ではないよね

think the future from  hitoshi watanabe lab.

●APPLEとの出会い

●最初の出会いは、1977年の東京大学都市工学科丹下研究室でした。私を建築の道に進むことを決意させてくださった丹下先生の研究室です。それだけでもドキドキしていたのに、当時、丹下研究室で助手をされていた故山田さんにお会いして、沖縄海洋博の群衆流動調査の報告書作成のために、初めて丹下研究室を訪ねたときのことでした。

そこで、目にしたのは、同じ年に発売されたばかりのパーソナルコンピュータが、「APPLE II」だったのです。その時は、まだ開発者がジョブズだということにはさほど関心がなくて、そのコンパクトさと、ちょっとだけスマートなデザインに惹かれましたが、購入するまでには至りませんでした。

●その後のアップルコンピュータは、APPLE IIIの失敗、Lisaの不振などから、なかなか脱却できなかったのですが、ジョブズが独立部門で開発をした画期的なマシンが世に出ることになるのです。

そのとき、私は在外研究新制度を利用して一年間の間、カナダのプリティッシュコロンビア大学で、客員教授をしていました。1984年になってすぐ、デパートの

コンピュータコーナーに、小さな四角い箱を見つけたのです。卓上トースターだと思っていました。

それが、まさかあの名機「Macintosh」だと気づいたのはしばらく経ってからでした。

1984年の夏、カナダから帰国してすぐに、日本ではキャノン販売が製品を扱うことを知って、当時、大学に出入りしていたキャノン販売の方をお願いして、日本に十数台最初に導入されるMacintoshのうち一台を確保してもらうよう依頼しました。

当時、100万円以上もする機械器具を、池原先生が快く購入許可をしてくださり、とうとう仁史研究室に鎮座することになったのです。

Macintosh 128kの最初のモデルは、ケースの裏にジョブズをはじめとする開発者たちのサインが刻印されていて、それはそれは貴重な一台だったのに、55号館への引越しの際に、行方不明となってしまいました。

その後のアップル製品は、卒業生の大半が手に触れることになりました。



1984年発売されたMacintosh 128k